

早めの避難が命を守る！

「避難」って
何をすれば
いいの？

小中学校や公民館に行くことだけが
避難ではありません。
「避難」とは「難」を「避」けること。
下の4つの行動があります。

● 行政が指定した避難場所への立ち退き避難

自ら携行するもの
*マスク *スリッパ
*消毒液 *体温計 等

非常持ち出し袋
入れておく！

● 安全な親戚・知人宅への立ち退き避難

普段から災害時に
避難することを
相談しておきましょう

ハザードマップで
安全かどうかを
確認しておく！

● 安全なホテル・旅館への立ち退き避難

通常の宿泊料が必要です
事前に予約・確認しましょう

ハザードマップで
安全かどうかを
確認しておく！

● 屋内安全確保

ハザードマップで、自宅にいても大丈夫かを
確認することが必要です

土砂災害の危険がある区域では
立ち退き避難が原則！

豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。やむをえず車中泊をする場合は、浸水しないよう周囲の状況等を十分に確認してください。

避難所混雑情報サイト (VACAN Maps)



スマートフォン等で
各指定避難所の位置や
混み具合を確認することが
できます。



※イメージ図

普段から
どう行動するか
決めておきましょう



つながる防災隊

No.19

発行：令和4年7月20日
発行人：四日市市地区防災組織連絡協議会
会長 里中 俊雄

目次

1. 協議会活動の報告 1P
2. 各地区での取り組み 3P
3. 防災情報 5P

今回は、総会の報告と各地区の防災への取り組みをご紹介します。

四日市市地区防災組織連絡協議会の 総会を開催しました

四日市市地区防災組織連絡協議会 会長 里中 俊雄

令和4年5月11日(水)に、四日市市地区
防災組織連絡協議会総会を開催いたしま
した。

今回の総会は3年振りの開催となりま
した。新型コロナウイルス感染症対策を
行った上での開催となったため約80名の
参加となりましたが、今回初めて四日市市
議会の樋口議長、市川副市長に参加して頂きました。地域住民と行政が関わる防災・



【樋口議長】

減災の取り組みを進める中でこの総会は大きな一歩となりました。

今回の総会審議では、昨年度の活動報告
や決算、今年度の活動計画と予算を審議し
決議を頂きました。

今年度は、現状コロナ禍にあるため状況
次第ではありますが、情報伝達を意識した
研修や防災活動啓発のため講演会を行うな



【市川副市長】

ど、新たな取り組みを進めていく予定です。

各地区においても、昨年度から中止して
いた活動が徐々に再開されてきています。

今後も感染対策を行いつつさらに活動を
充実、深化できるよう検討し、今年度の協
議会を運営していこうと考えております。



【総会の様子】

総会で講演会を開催しました

今回の総会では、新たな防災啓発活動の取り組みとして、総会において講演会を開催しました。講師を務めて頂いた高瀬邦夫氏は、気象庁に勤務し、名古屋地方気象台長を経て、現在は気象防災アドバイザーとして気象予報士の育成や、自治体等の防災担当職員の研修に携わるなど、ご活躍されています。

「進化する気象情報 ―知って生かそう―」と題した講演では、気象情報を通じた防災活動の方法や、気象情報の読み解き方、その情報をどこで得られるか、どのように活用するかについて講演して頂きました。三重県や四日市市の実例に併せて、大雨や洪水、土砂災害について説明があり実感を伴う内容の濃い講演となりました。

総会での講演会は、今回が初の試みではありましたが、今後も防災啓発活動として講演会を行うことを検討しておりますので、その時にはぜひご参加ください。



【講師(高瀬邦夫氏)挨拶】



【講演会の様子】

危機管理統括部 危機管理課を設置しました！



この度四日市市役所では、危機管理統括部危機管理課が令和4年4月1日から発足しました。前身の危機管理監危機管理室から名称を変更しただけでなく、防災計画の立案等を行う危機管理企画グループと、地域支援に携わる地域防災支援グループの2つのグループを今回設置しました。グループ制となり、地域課題に対してより綿密に取り組めるよう励んでいく所存です。

四日市市緊急告知ラジオについて

緊急告知ラジオとは？

電源がオフの状態でも緊急時には電源が自動的に入り、全国瞬時警報システム(Jアラート)や四日市市に特化した災害・避難情報が高音量で流れます。

四日市市緊急告知ラジオの特徴

- 緊急放送時は、非常灯が点滅し、照明のLEDが点灯します。
- 平常時は、FM/AMラジオとして使用できます。
- ACアダプターと乾電池の併用で、停電時にも対応可能です。
(停電時には自動的に乾電池に切り替わります。)

※乾電池のみでの使用期間は、待機状態で約4日間です。

- 受信状況や動作確認のため、毎週月曜日午後5時30分～試験放送を実施します。

※電源が自動的に入り、試験放送が通常音量で流れます。



購入補助制度があります

制度や手続きに関してのお問い合わせは、
四日市市役所 危機管理課まで！

☎：059-354-8119

⚠️ ご注意ください

- ◆旧ラジオ(右写真)での緊急放送は令和4年3月末で終了しています。
- ◆自動起動放送の受信には新しいラジオの購入が必要となります。
- ◆通常のラジオとして使用できますが、不要となった場合は、危機管理課またはお近くの地区市民センターへ返却してください。



四日市市Sアラート

市の防災行政無線(固定系)の放送内容がスマートフォンに直接届く！
インターネットに繋がる場所であれば全国どこにいても登録地区の情報が届きます！
※端末の位置情報は取得しません。

音声でも
文字でも
確認できる！



アプリをダウンロード！「Sアラート」で検索またはQRコードから

Appleの場合



Androidの場合



©Apple, Appleロゴ, iPhone, およびiPadは米国その他の国で登録されたApple Inc.の商標です。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。
©Android, Google Play, Google Play ロゴはGoogle LLCの商標または登録商標です。

ARアプリで今すぐ確認！ あなたの家の浸水リスク

AR防災学習アプリ『ARLook(あるっく)』をダウンロードしてあなたの家やよく訪れる場所の浸水リスクを確認してみませんか？



あるっく
ARLook ってなに？

スマホなどのカメラをかざして地域を「歩いて」「見る」ことでAR(拡張現実)技術により表示される近くの避難所や現在地の浸水深などを見ることができるアプリです。



小・中学校防災教育の支援活動（地域防災力向上）

八郷地区防災連絡協議会 会長 毛利 良一

八郷地区防災連絡協議会では、地区内の小中学校児童生徒に防災への関心を高めてもらうため、防災教育支援活動を毎年継続して実施しています。

小学生の防災教育支援として、地域内の2つの小学校4年生を対象に“こども防災探検隊”を毎年実施しています。中学生の防災教育支援は、1年生を対象に防災倉庫の保管品の説明と体験を行っています。

〈こども防災探検隊〉 学生と地域の方々が一緒にまち歩きを行い、自分たちのまちの防災倉庫や消火栓等の防災設備や危険箇所をチェックします。まち歩きで気づいたこととタブレット撮影した写真で「防災マップ」を作成し防災マップ発表会を開催します。発表会には地域の方々も参加し質問やアドバイスをを行います。



【まち歩き】



【防災マップ作戦】



【防災マップ発表会】

〈防災倉庫説明・体験〉 防災倉庫に入っている防災グッズを体育館の前に並べ使い方の説明を行い、ボールやとび口の使い方を習得しました。その後、発電機を起動し投光器を接続、簡易トイレを組み立てて簡易トイレ用のテント内への設置を体験しました。



【防災倉庫説明】



【簡易トイレ体験】

初の夜間防災訓練を実施（2021年11月）

中央地区自主防災組織連絡協議会 会長 伊東 一明

中央地区では例年防災訓練を実施しておりますが訓練内容が変わることなく若干のマンネリ化を感じておりました。そこで令和2年度に地区初の夜間訓練を行おうと計画しておりましたがコロナ禍により防災訓練を中止することになりました。

それから1年経過し令和3年度に再度夜間訓練を実施すべく計画を致しました。コロナ禍の訓練ということで特に受付時の検温・消毒・参加者確認等の徹底を致しました。

訓練の目的としては指定避難所になっている中央小学校までの避難経路の街灯照度・歩道の段差確認と避難所となる体育館（周辺含め）の明るさの確認を体感してもらうこととしました。夜間訓練に伴い照明関連資機材も購入しそれらも使用して明るさの確認を実施しました。初の夜間訓練のため参加者はどれくらいになるだろうと心配しておりました。しかし、訓練当日は想定していた以上の参加者があり地区内での防災意識の高さを実感しました。

今後の防災訓練についても参加者が体験・体感できるような企画をしてより多くの参加者が「よかったな、来年も参加しよう」と思っただけのようにしていきたいと考えております。



【夜間防災訓練の様子】

私たちの備えと安心「たるさか防災隊」

大谷台自主防災連絡協議会 会長 伊藤 裕

この組織は、発足10年目を迎える「たるさか防災隊」です。市民センターから一番遠い地域性に感じた思いで作られました。防災に関心のある者の集合で組織人員も少なくとも組織を作ること優先したいと垂坂7町の自治会長に提案しました。

災害が発生した場合、消防署、消防団は沿岸部への出動で垂坂町には来れない来ない。私たちの町は私たちが助け合う必要があるとの思いで、しかもその地域で防災に特化した住民組織が必要と考えました。創設は自治会の協力と理解で運用資金の拠出で組織する事となり、人員は提案者にゆだねられ20名での発足となり、設立当初はCTYや新聞など関心を集めました。そして、活動の維持継続が最大の責務との思いで10年を迎えることとなりました。

組織人数の減少もなく隊員の交代や女性も参加し、40代50代中心の安定した活動が継続されています。活動は防災訓練、放水訓練、AED心肺蘇生訓練を住民に指導。自らは防災関連ビデオによる知識習得や消防署に出向いての訓練。活動ごとに活動ニュースの回覧。全戸啓発ビラの発行。無線交信訓練(定期)。自治会防災隊長との定期会議など、自治会関与なしに独立した活動をしています。これからも、組織の継続と地域防災リーダーの意識を持って、地域に根差した地道な活動を続けてまいります。



【自治会防災隊員に放水訓練を指導している様子】



【10年を迎えてユニホームを新調し、新調した資機材の確認と説明の様子】

【水沢地区での防災活動について】

水沢連合防災会 会長 森 哲也

水沢地区は、市の最西端に位置し、津波の心配もなく大きな災害とは無縁だと考える住民が多く、防災意識の向上が継続的な課題となっています。

長引くコロナ禍で単位自治会での防災訓練も規模縮小が続きましたが、防災資機材の総点検など住民主体で防災の足元固めを行いました。

9月には女性防災隊「ガーベラグループ」がオンライン形式で防災講演会を開催しました。「減災と男女協同参画研修推進センター」共同代表の浅野幸子さんを講師に迎えて、当日は会場での視聴に加え、約50人がスマートフォンやパソコンから参加し、コロナ禍における災害への備えや避難生活で気をつけるべき事例などについて先生のお話を視聴しました。



【現地での防災講演会の様子】



【オンラインでの防災講演会の様子】



【ガーベラ新聞】

講演会後には講演のポイントをまとめた「ガーベラ新聞」を作成・全戸配布して、日常生活の中で心がけたい意識と備えを呼びかけました。

今後も、様々な方法を取り入れながら途切れのない活動を続け、地域の防災力向上を図っていききたいと思います。